

でもればある程期待も大きい。

この狩生新洞は昨年夏、佐伯市觀工課と狩生地及び、保護開祭を手がけた。觀光資源として開祭し、一般に提供するまでは、条件整備も多難をきわめることである。なせかなら、この狩生新洞は、入洞に相当な用具や準備がいる。洞内は緊破の影響が残り、落石などの危険が多い。第一、入洞そのものが十数人のロープによる収めならぬので、青壯年時代の体力が必要である。

私は、洞内の景觀を釐乳洞のいのちととらえず、學術的に鐘乳活動の一つ一つに目を注ぎ、大自然の管見、その記念物として受けとめ、保存保護には万全を期してほしいものである。

開祭と破壊は、表裏一体という説もあるが、洞底の自然をよく見きわめたと上なら、破壊は最少限に止められる。即ち狩生新洞の特異な価値を認め、万全の賞護管理が望まれる。その辺の事前調査も、管理体制の確立が、觀光資源として公開される以前に必要である。

この郷土の天然記念物が一般に公開され、學術的研究の対象となり、一般の探訪が許されるのはいつの日になるのであろうか、待た速しいものである。(おもしろ)

(埋葎) 清江 高野のお四国山

清江の町を一望出来る高野の山は、八十八ヶ所を巡拝する本四国山がある。因のように自然石でかまされたおたま屋の中には、本四国の寺々を「查書」が刻まれている。これはどこにもあること。



このおまは、いさかちがって、仏様の頭上に入れ所番号、右側にトサとかアワとか片浪名で固名、その下に寺の名があり、左がわに寄進者の、浦の名と名前、例えば「いのかくしおよし」といつた格好。おもしろいと思つた。(用)

紹介

富尾神社の神踊と杖踊

—黒沢に伝えられている民俗芸能—

会員 山崎 作一

これまで何回かこの誌上で紹介してきました。榑津礼城主佐伯惟治公さまの富尾神社は、私の部落青山黒沢の船形(ふねがしたと呼ぶ)に鎮座してゐます。

この神社は黒沢部落の氏神で、祭典には四百年の昔から、神踊と杖踊十八番の奉納行事があります。大正から昭和の初めごろが特に盛んで、戦時中もたゆることなく、村中ほとんど全部が参加し、お祭り前一月間踊りの女らし(練習)が行なわれていました。

終戦後日当部落もお多分にもれず昔からの風習はさびれ、神樂祭典は取りやめ、ただお祭だけとなり、老人たちが神踊と杖踊三番だけを諸願成就のお礼として奉納していた有様でした。しかし後を継ぐものがなく、年々人数が減る一方、神社に對しまたこれまで伝えてくれた祖先に對し、まことに相すまぬ次第と苦慮してまいりました。

とこもが、去る昭和四十一年三月、民俗芸能として大分県の無形文化財に指定されました。その当時、深天多喜男先生たちにより、「大分県地方史」や文化財調査報告書「大分地方民俗芸能」などの本で広く紹介されました。その時は部落民一同元氣が出て、全員で祭礼行事を行ない、深矢先生からもご覽いたたまりました。しかし神踊、杖踊とも後継者がなく、又々さびれがちとなりました。時世がちがって、若い者たちが祭礼行事など、見向かないようになったかんでしよう。

ところが、窮すれば通ずるといふ。はからずも昨年秋、大分県の「ふるさと大分」振興運動で、わが富尾神社の神踊と杖踊かとりあげられ、後継者育成のためは、助成金の交付を受けることになりました。県下で数多い無形文化財、民俗芸能の保存団体があるのに、僅か五分所の内の指定に入り、県並びに市から助成金を受けるといふのです。

今年正月、部落の総会初寄りで、部落民全員加入して保存会を結成することに決まりました。そしてこのようなことに熱心で、祭礼行事に最もくわしい多田太郎吉氏を保存会長に推挙し、その他老人、中年の指導者を頼み、月に三、四回づつ、ひまきを見つけて練習して来ました。若い人達を指導したり、新しく協力する人を加えて、四月の祭典に胡におうよう、練習に励んでいます。その練習の柳度、佐伯市の教育委員会の方が御足労して下さり、なにかと励ましをいたしています。

経費もいります。神踊、杖踊の道具、及び使う大本鼓、小太鼓、笛、鼓、金杖、木刀、薙刀、及び装束などの補修新調。それに練習の際の茶代などで、それらが県や市の助成金補助金、部落からの負担金もあることになつていきます。また少々なことは個人負担としてやっております。

練習の日には三十人位が集まり、若い人達も追々かわり熱心に習っております。

祭典は、四月二十五日ですが、今年は四月二十日の日曜日、昔ながらの賑やかな神幸祭典が行なわれることでしょう。部落民一同楽しみにして準備しています。

会員の方々のご参拝と、ご観覧にお出ることをお待ち申し上げます。

(付) 神踊にうたわれる「神踊歌」多田会長集録をお目にかけます。

託歌

富尾神社奉納 神踊歌 (一部)

会員 多田太郎吉 採録

あまの岩戸のそのはじめ かくれし神をいださんと  
八百よろづの神あそび これぞかぐらのはじめなり

これぞかぐらのはじめなり

いや お伊勢おどりはあ おどりおどりてなぐさ、みぬ

れば いや 国も豊かに 千代も栄ゆる目出たさや

いや 東は関東おくまでかえす

老若男女おしなみて まいりげここの目出たさや

いや 榊小枝にしできりかけて

いや お伊勢おどりの目出度さや

はいや かごめせかごめせ とりかごを かえす

はいや やまがらの かごかうちでのうらみごと

はいや かごが こかごでか さてあそはれん

いや めいしよおどりをおどるよはあおどるよ

いや みいでらのかえす かねのひびきにめがさめて

かねにとがなや とりにとがなや

あら おもしろの めいしよや

はいやは 春はさくらの そのしたせん

さくらまさりの まりあそび

はいや おいてはおつねそらん

やまのあそびは おもしろや

(採録)